

教宣 せぶん

共同総行動 断面図

聞きしにまさったセンチュリー

日比谷線・人形町駅を下車し歩いて1分、日産センチュリー証券本社に着きました。AIGスター生命社・東京海上日動社と違い、この会社は1階が営業フロアになっており、沿道に陣取った私たちからもガラス越しに、お客さんや接客している社員の姿が見えました。抗議行動が始まってしばらくすると、その1階フロアの、沿道に接しているウインドガラスに1枚のポスターが貼ってあるのが見えました。山一証券倒産の際の、例の「社員は悪くありませんから」と泣いて訴えた、この会社の社長らしき人物が写っていたので、近寄ってそのポスターを見ると、案の定、その昔、一世を風靡した、現日産センチュリー社社長の姿がありました。宣伝用のポスターなので、その社長の姿の横に、キャッチフレーズが掲載されていたのですが、それを読んで驚きました。あまりに衝撃的だったのでメモを取ってきたのですが、聞きしにまさった瞬間でした。

実直主義

人を大切にすること。まっすぐ未来を見つめること。もっとヒューマンで真摯な証券会社へ。
日産センチュリー証券

おそらくこの宣伝用のポスターをつくるにあたって、この社長が、その昔に世間一般に与えたのではないかというイメージ、つまり「不恰好」「不器用」だけれど「正直」というイメージを、前面に押し出し『実直』という言葉で表現し、新会社のPRをしようとしたのでしょう。この経営が影でやっていること、裏でやっていることを知らなければ、道行く人がこのポスターを見たとしても何の感情も持たずに通り過ぎることでしょう。しかし、私は、この経営が「おかしいことをおかしい」という組合をつぶそうと企て、不当配転や不当労働行為を繰り返し、拳句の果てに訴訟のための書証を裁判所に提出したことをもって、個人情報保護法に違反したとして金子副委員長を解雇するという暴挙に出たことを知っています。「実直」というこの言葉が、空々しく、虚しく響きます。「実直」という言葉がかわいそうだと思ってしまいます。「実直」という言葉は「こんなところで使われたくない」と思っているに違いありません。「どこが人を大切にできる会社なんだ」「どこがヒューマンなんだ」「どこが真摯なんだ」この事実を知っている者なら誰もがそう感じるでしょう。

この日、金子さんは、自分の身にふりかかった、この経営者による「不当」で、「理不尽」な行為を訴え続けました。「実直」は金子さんのためにある言葉と誰もが思ったはずですが、金子さんと「実直」を正しい場所、あるべき位置に戻しましょう。